

各部企画展示

《絵画部》「新しい眼」

— 若手作家の挑戦状 —

全国7ブロックから推薦された40歳以下の作家たちによる企画展。若手作家の発掘、育成及び国画会絵画部の活性化を図ります。

会場：2B 絵画部企画展会場

● 出品者によるギャラリートーク 4月30日(水)午後3:00～



《写真部》「女流作家展」

会員・準会員の女流作家20人による目と心でレンズを通しての自己表現を本展の作品とは違う作風にて展示。

会場：2階 写真部展示室



《版画部》「版画部会員有志による小品展」

太子額限定。

会場：3階

版画部展示室



関連行事

第99回国展シンポジウム

「つくるとは — あらためて国画会とは —」

梅原龍三郎の研究者として著名な監修者の宝木範義氏による国画会発足から現在に至るまでの基調講演に続き、五部門会員の登壇者による初出品から現在までの国画会の検証を行い今後の国画会がどうあるべきか討論していきます。 後日、動画配信予定
5月3日(土・祝)午後1時～3時45分 会場：講堂(3階)



第19回トークイン「聞こえますかアートの声」

申込参加者(定員100名)が5部門の各出品会員と5つのグループに分かれ対話していく鑑賞会です。詳細は国展HP「トーク作家紹介」を参照。

※事前申込制 3月1日～4月10日

5月5日(月・祝)午後1時30分～3時40分 会場：各部展示室



有志による 自然保護・社会福祉のためのチャリティー販売

国展会期中に国画会5部門の有志による作品の販売をおこない売り上げを寄付しています。

会場：3A 版画部展示室奥(彫刻部のみ1D奥)



国画会の沿革と先達の紹介

国画会の成りたち

1918年(大正7年)文展から自由な制作と発表の場を求めて、京都の青年日本画家小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰、入江波光らは在野としての「国画創作協会」をおこし、その定期展の通称を「国展」とした。

創立宣言・・・「各自ハ各自ノ自由ノ創造ヲ生命トス」

「芸術ノ創作ハ極メテ自由ナラザル可カラズ」

「本会ハ創作ノ自由ヲ尊重スルヲ以テ第一義トナス」

同協会は1925年(大正14年)土田麦僊と交流のあった梅原龍三郎を招き、さらに川島理一郎を加え第1部を日本画部とし、第2部として洋画部(現絵画部)を設置した。(翌1926年が第1回国展に相当)そして1928年(昭和3年)国画創作協会の解散に伴い、第2部は名称を「国画会」として独立し、定期展の通称「国展」もそのまま継承した。

草創期の国画会の果たした在野団体としての役割は、福島繁太郎の影響もあり、毎年のようにマチス、ボナール、ロダン、ブルデル、バーナード・リーチ、ルオー、モネ、ルノワール、シャガール、ピカソ、セザンヌ等々諸外国の優れた作家たちの作品を特別陳列して世に広く紹介したことが特筆される。この事は内部的に研鑽の資となったのは勿論、対外的にも海外作品に触れることの少なかった当時の美術界には非常に有益な企画でもあった。

以後、絵画部に版画部・彫刻部・工芸部・写真部を加え、5部による美術団体として、毎年*春期に日本最大級の公募展である「美術の春・国展」を開催。創立精神である「創作の自由」をモットーに、個性を重視し多様化する表現様式と新しい世代にも呼応する総合美術団体として、広くファンの支持を得ている。そして2007年(平成19年)に創立以来の会場であった都美術館から、国立新美術館(東京・六本木)へ移り、2016年(平成28年)には90回記念国展が盛大に開催された。

最近の企画から

《1997年～》国展会場にて「自然保護・社会福祉のためのチャリティー」《2006年》パネルディスカッション「80回までの各部の変遷と国立新美術館における「表現の可能性」について」/ 80回記念国展キャンペーン「国展を歩く」記念誌「国画会80年の軌跡」刊行/ 諸記念展開催(「国画会の画家たち展」・「伝統からの旅立ち展」等) 《2007年～》国展トークイン「聞こえますか アートの声・作者の声 作者の心」 《2016年》90回記念国展「90 vs 90+展-見よ国展の底力-」 《2016年～》国展シンポジウム開催
※戦争激化のためやむなく中止した1945年(昭和20年)、新型コロナウイルスの影響により中止した2020年(令和2年)、展示中止とした翌2021年(令和3年)を除く。

1970年頃の梅原龍三郎(集英社現代日本美術全集より転載)

近代日本美術の先達

下記に掲げる作家は近代日本美術の先駆者として活躍した先達であるが国画会においても大いに活躍しまたその後内外に多大な影響を及ぼしたことも知られている

絵画部 梅原龍三郎 川島理一郎 山脇信徳 大橋孝吉 椿貞雄 河野通勢 高村光太郎 難波田龍起 宮坂勝 高橋達四郎 宮田重雄 柏木俊一 久保守 武者小路実篤 益田義信 山口薫 青山義雄 庫田貞 杉本健吉 土田文雄 香月泰男 山崎隆夫 国松登 林重雄 伊藤康 宇治山哲平 曾宮一念 川口軌外 原精一 須田勉太 井上三綱 松田正平 里見勝蔵 小泉清 張替正次 彼末宏 小牧源太郎 藤田吉香

版画部 平塚運一 恩地孝四郎 川西英 川上澄生 棟方志功 畦地梅太郎 関野準一郎 山口源 笹島喜平 齊藤清

彫刻部 金子九平次 清水多嘉示 柳原義達 新海竹蔵 山本豊市 関谷充 千野茂 桜井祐一 茨木敏夫 鈴木実

工芸部 富本憲吉 柳宗悦 濱田庄司 ハーナード・リーチ 芹沢銈介 河井寛次郎 柳悦孝 船木道忠 柳悦博 黒田辰秋

写真部 野島康三 福原信三 木村伊兵衛 中山岩太 北角玄三 西山清 入江泰吉 吉川富三 清水武甲 杵島隆

国画創作協会創立当初の顔ぶれ 前列中央 小野竹喬 中列左から 村上華岳、野長瀬晩花、土田麦僊 後列左から 中井宗太郎、榊原紫峰



会場

国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2

アクセス

- 東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
- 東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
- 都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分



www.kokuten.com



f KOKUGAKAI



ig KOKUGAKAI

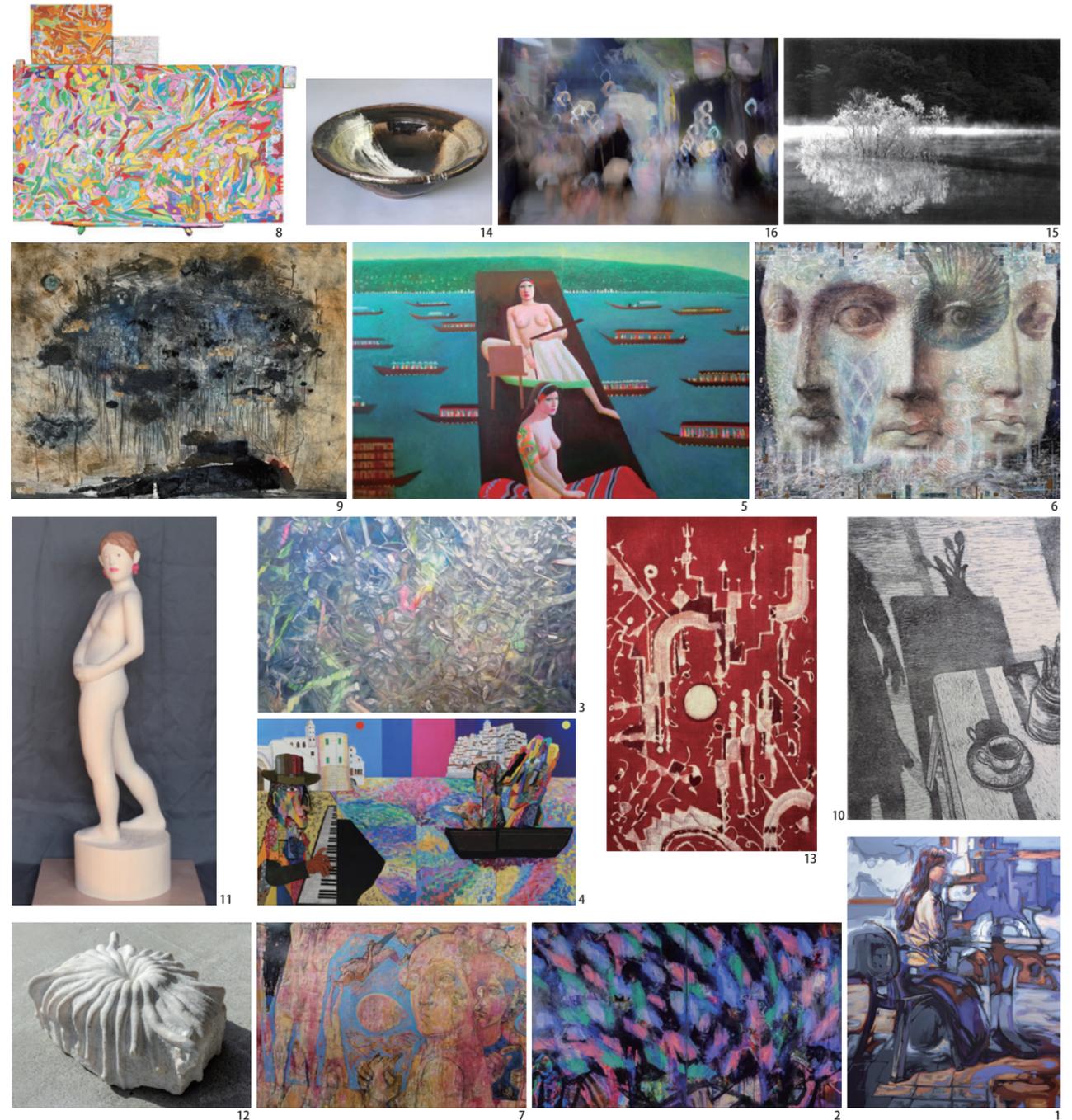
国画会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-16 北田ビル4階
TEL/FAX 03-3438-1470 info@kokuten.com

99th 国展

美術の春

絵画
版画
彫刻
工芸
写真



【絵画部】1.麻田征弥「ひととき」 2.川野裕一郎「魂のかたちと戯場国」 3.五島綾子「ゆめみるあわ」 4.小西雅也「そして船は行く」 5.佐々木豊「橋の上の画家」 6.長尾多加史「時の移ろい」 7.萩原敏孝「夢と現」 8.山内英夫「瑛(エイ)」 【版画部】9.高野理栄子「Ame」 10.渡辺永子「Stay home -12」 【彫刻部】11.エンドウヨウコ「ザクロ」 12.渡辺治美「Root」 【工芸部】13.古俣和子「宙のバズル」 14.松形恭知「鮎流流掛大鉢」 【写真部】15.乙女敏子「早春」 16.長谷川清「stream'25」

主催 国画会

後援 NHK厚生文化事業団

日本自然保護協会

《巡回展》
名古屋展 愛知県美術館ギャラリー 5/20(火)～25(日)
大阪展 大阪市立美術館 6/10(火)～15(日)
福岡展 福岡県立美術館 6/24(火)～29(日)

国立新美術館 (東京・六本木)

展示室 1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D、3A、3B 野外展示場 A、B、C、D

2025年4月30日(水)～5月12日(月)

午前10時～午後6時(入場は終了時間の30分前まで) ※5月7日(水)休館
最終日午後2時閉会(入場は閉会の1時間前まで)

一般入場料 ¥1,000 学生及び20歳以下、または障がい者手帳をお持ちの方は無料
※ご来館の際に開館日時等最新情報は国立新美術館のホームページでご確認ください

第98回国展 (2024年) 受賞作品一覧

準会員の賞



1

準会員優作賞

1. 絵画部 桶谷紫乃『よしみち』
2. 版画部 福地秀樹『生成 4』
3. 工芸部 古口愛子『飴釉鉢』



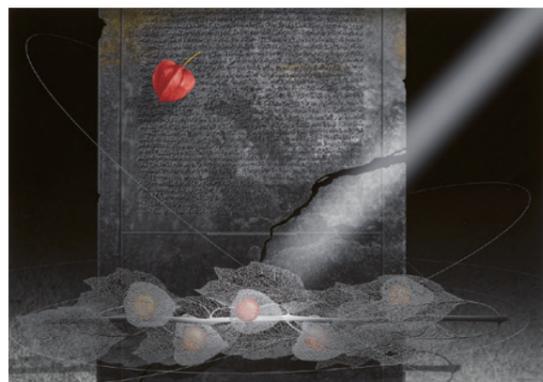
4



2

各部の賞

4. SOMPO美術館賞
絵画部 長谷川輝和『とあるヨル、とあるアサ』
5. 版画部 準会員奨励賞 稲継豊毅『碑文一鬼灯』
6. 彫刻部 準会員T氏特別賞
竹本悠太郎『トリトヒトーLike the September Winds』



5



3



6



7

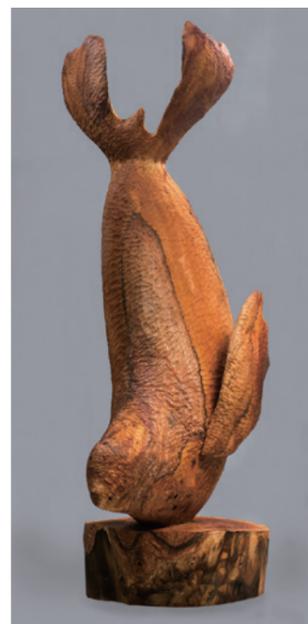


8

7. 絵画部 森田恵美『view of Nara I』
8. 絵画部 山門みつき『BIRTHDAY』
9. 版画部 葛西祐子『Go find VI』
10. 彫刻部 益子康平『ジロー』
11. 工芸部 秦光代『エナジーブルー』



9



10



11

新人賞



1



2



3



3



4



5



6



7



8



9



10

絵画部

1. 石岡不二男
『おしべとめしべとかふん①』
2. 久留島江那『短命』
3. 成川純子『SEWING ROOM-2-』
4. 長谷川敦子『古代逍遙 A』
5. 林緑『定期点検日』
6. 宇都宮俊次『ネジ 螺子 ねじ』
7. 内藤三香『カラス 4 8』

彫刻部

8. 西丸純子
『風景の諸相II -River flows in me-』

工芸部

9. 中山美伸
『花綴織着物「インフィニティ」』
10. 藤岡あゆみ『月の船』
11. 松永慎一郎『椅子』

版画部

6. 宇都宮俊次『ネジ 螺子 ねじ』
7. 内藤三香『カラス 4 8』

会友賞



1



2



3



4



5



6



7



8



9

絵画部

1. 大谷かつ美『移動する庭』
2. 小川廣子『うたかた 2』
3. 田中美沙『ストレスからの解放』
4. 原亮一『グリーンウォール (2)』
5. 町田洋子『肌色の話』

版画部

6. 藤本市郎『引き潮-1月のマーブル』

工芸部

7. 大森雅子『花に猫』
8. 西川知余『滝しぶき』

写真部

9. 橋本明夫『結合』